

砂丘地農業における根深ねぎ若手農業者の育成

所属名 : 南薩地域振興局農政普及課

発表者名 : 白澤 繁清

<活動事例の要旨>

砂丘地の農業の振興を図る中で、特に、根深ねぎの新規就農者が年々増加してきた。農政普及課では、新規就農者の就農相談に応じるため、砂丘地営農モデルを策定するとともに、35品目485種類の営農シミュレーションを作成し、「営農がイメージできる就農計画作成」を支援した。根深ねぎの新規就農者は、5年間で20名増加した。

1 計画された活動の課題・目標と策定過程

(1) 課題・目標と設定理由、及び活動の内容と方法

砂丘地の網揚・岩崎針本地区では畑かん施設の更新及び再整備が計画され、将来において畑かん活用による農業振興が期待された。

そのため、普及計画では基本計画の中で「砂丘地特産野菜産地の育成」を課題として取り上げ、年度毎の重点活動として「砂丘地農業の振興」を位置づけて野菜チームを中心に活動を展開した。

(2) 計画の策定過程

砂丘地農業の中心である網揚・岩崎針本地区では、生産者代表と関係機関が連携して、「網揚・岩崎針本地区砂丘地農業推進連絡協議会」を発足し、地域営農振興計画の検討や作付実態調査、農地中間管理事業の活用等に取り組んできた。その結果を踏まえ、「砂丘地農業振興計画」の策定を進めている。

2 普及活動の内容

(1) 活動の経過

ア 地域営農実態調査の実施

平成27年5月の推進連絡協議会発足後、作付実態調査及び作付マップの作成、営農意向調査、営農ビジョンの検討等を行ってきた。

イ 砂丘地農業のモデル営農類型の作成

砂丘地経営体の目標となる営農類型について、営農シミュレーションを活用し、6モデル営農類型を作成した。

ウ 根深ねぎ若手農業者の育成

- ① 関係機関と連携した就農相談活動の充実
- ② 品目・作型に応じた営農シミュレーションの作成
- ③ J A間の栽培技術統一
- ④ 地域優良事例集の作成・・・技術の伝承
- ⑤ J A部会組織を越えた研修会や交流会の実施

エ 調査研究活動の位置づけ

調査研究では、普及活動の一環として、「砂丘地農業振興の検討」や「砂丘地農業モデル営農類型の作成」「根深ねぎ新規栽培者の支援方策の検討」などに取り組み、地域振興計画の基礎となる地域農業者の意向把握や、若手農業者の育成支援に活用されている。

(2) 指導・支援の体制

営農モデルの作成では、各品目担当が品目毎の基礎資料を作成し、野菜担当係長がチーフとなって品目組み合わせによる営農モデルを作成した。

また、就農相談では、関係機関が一堂に会して新規就農者の相談活動に対応する体制をとった。

3 普及活動の成果

(1) 課題及び目標の達成状況とその要因

ア 農地流動化の推進

地域農業の実態調査実施や話し合い活動を推進した結果、農地中間管理事業の活用が進んだ。(網場・針本地区 86haのうち29haを集約)

イ 砂丘地農業モデル営農類型の作成

根深ねぎ、らっきょう等モデル類型を6類型作成し、砂丘地の各部会で説明・提案。

ウ 新規就農者・参入者向けの営農シミュレーションを作成・配付

35品目485種類の営農シミュレーションを作成し、就農計画作成に活用。

エ 根深ねぎ新規就農者の定着促進

根深ねぎ新規栽培者が過去5年間で20名増加した。普及では、就農相談や生産技術研修、経営指導等を実施して、生産力・経営能力の向上に努めた。

(新規就農者の生産額：H26 100%→ H28 219%)

(2) 活動に対する生産者・農家の評価

ア 営農シミュレーションを基に経営分析、指導を行う取り組みこそ新規就農者にとって経営立ち上げの有力な手法と思われる (H28外部評価員の評価より)。

イ 枕崎にUターンしてサツマイモを主幹に農業を始めたいと考えたが、農地が2haと少なかったので断念し、新規就農者でも根深ねぎならなんとかやっていると聞き、加世田の根深ねぎ農家に教を請うたり、若手栽培研修会に参加した甲斐あって、農業が軌道に乗り、根深ねぎの規模拡大を図っている(新規就農者)。

(3) 地域農業振興への貢献

砂丘地において根深ねぎの若手農業者が定着し、規模拡大を図っている。中間管理事業においても、農地の受け手の多くは根深ねぎ栽培者である。

また、根深ねぎ農家は砂丘地に限らず、他の地域や周辺市の若手農家にも拡大している。新規就農者や参入者など若手農業者を確保育成することで、地域農業の活性化につながっている。

4 今後の普及活動に向けて

(1) 今後の課題と対応状況

ア 振興方策の策定及び畑かん事業の推進

イ らっきょう調製作業の労力補完の仕組みづくり(切り子対策)

ウ 新規栽培者の確保育成に向けたシステムの構築(研修受入農家を含めた研修体制)

エ 若手根深ねぎ栽培者の組織化と自主的活動

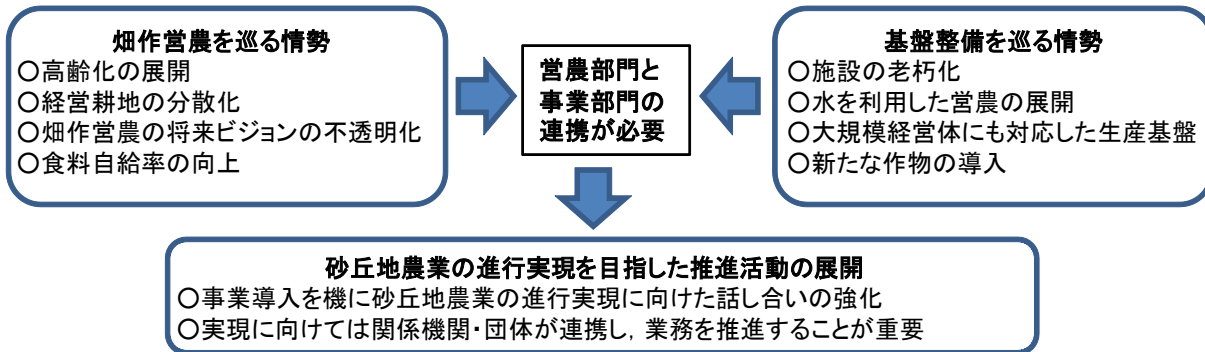
(2) 今後の活用に向けて (普及活動に向けた提言)

ア 「砂丘地」という地域特性を活かした産地づくりのあり方と所得向上につながるための普及活動

イ 新規就農者を育成するための実現可能な営農シミュレーションの活用の充実

ウ 技術指導を核とした新規栽培者の交流と組織化(情報の共有、伝達速度)

砂丘地農業の展開(南さつま市 網揚・岩崎針本地区)



営農部門	事業部門
<p>1 準備段階(事業採択3年前(H26年度))</p> <p>1) 地区の現状調査及びニーズの把握</p> <p>2) 調査内容整理</p> <p>3) 地区の方向性の検討(作付品目・体系・流動化)</p> <p style="text-align: center;">ソフト: トータルプラン, 人・農地プラン作成事業</p>	<p>1 準備段階(事業採択3年前(H26年度))</p> <p>1) 営農部門と連携し, 地区の状況把握を図る</p>
<p>2 地区準備段階</p> <p>1) 事業実施部門と連携し, 引き続き支援</p> <p style="text-align: center;">ソフト: 人・農地プラン作成事業</p>	<p>2 実施段階(事業採択1~2年前(H27, 28年度))</p> <p>1) 計画策定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事業計画書の策定 ・経済効果算定 ・同意徴収 <p style="text-align: center;">ハード: 農業農村整備実施計画策定事業</p>
<p>3 通水ほ場における営農指導等</p> <p>1) 水を利用した営農の展開</p> <p>2) 流動化の実践</p> <p>3) 担い手の明確化</p> <p style="text-align: center;">ソフト: 人・農地プラン作成事業 機構集積協力金交付事業</p>	<p>3 事業実施段階(事業採択(H29年度))</p> <p>1) 事業計画に基づく整備</p> <p>2) 流動化の実践</p> <p style="text-align: center;">ハード: 農業競争力強化基盤整備事業</p>

砂丘地農業の振興実現

【活用事業概要】

- 1) 県単農業農村整備事業調査費(土地改良トータルプラン)の活用による地区情報の整理
- 2) 人・農地プラン作成事業活用による調整活動(地域連携推進員)
- 3) 機構集積協力交付金事業活用による担い手への農地集積
 - 地域集積協力金: 1.5万円/10a(2割超5割以下)等
 - 経営転換協力金: 30万円/戸(0.5ha以下)等
 - 耕作者集積協力金: 1万円/10a
- 4) 農業農村整備実施計画策定事業による事業計画書作成 補助率: 50%
- 5) 農業競争力強化基盤整備事業によるパイプライン整備 補助率: 50%